

東日本大震災による津波の被害が大きかった宮城県南部の沿岸地域で屋外型ジャヤー・観光施設の開業が相次いでいる。19年4月には眞理町にマリンスポーツ施設「B&G海洋センター」が、21年4月には仙台市若林区に体験型農園「JRフルーツパークあらはま」がオープンしたほか、特に目立った動きを見せてしているのが仙台市の蘭に隣接する名取市の閑上（ゆりあげ）地区である。

全国有数の赤貝の産地としても知られる閑上地区は、古くから港町として栄えてきたが、東日本大震災の際、80%を超える津波がこの地域を襲った。沿岸から1キロ以内の木造住宅の大半が流失し、多くの方が亡くなるなど甚大な被害を受けた閑上地区は、その後、かさ上げ工事を伴う現



東日本大震災による津波の被害が大きかった宮城県南部の沿岸地域で屋外型レジャー・観光施設の開業が相次いでいる。19年4月には眞理町にマリンスポーツ施設「B&G海洋センター」が、21年4月には仙台市若林区に体験型農園「JRフルーツパークあらはま」がオープンしたほか、特に目立った動きを見せてているのが仙台市の閑上(ゆにんじょう)に隣接する名取市の閑上(ゆにんじょう)地区である。

全国有数の赤貝の産地としても知られる閑上地区は、古くから港町として栄えてきたが、東日本大震災の際、8倍を超える津波がこの地域を襲った。沿岸から1キロ以内の木造住宅の大半が流失し、多くの方が亡くなるなど甚大な被害を受けた閑上地区は、その後、かさ上げ工事を伴う現

一般財団法人日本不動産研究所 ニューノーマル最前線

不動産の“変”と“不变”

第18回 宮城県名取市

地再建型の復興が進められてきた。14年には震災で一時中断していた「ゆりあげ港朝市」

が再開し、18年には白山運河を巡る「ゆりあげ周遊船」の運航が開始された。19年には青森県八戸市から福島県相馬市までをつなぐ「みちのく潮流トレイン」の拠点「名取駅」、レイルセンター」やセーリングの拠点「関上ヨットハーバー」のほか、名取川沿いの堤防に商業施設「かわまちでらす関上」が立て続けにオープンした。更に、20年10月には自転車クリエーション施設のほか、スケート場等を備える「名取市サイクルスポーツセンター」が再建された。これらの屋外型レジャー・観光施設は、コロナ下において

一つには、コロナ禍で余暇の過ごし方に変化が起きていることがある。コロナ下では、物販店舗や飲食店舗等の屋内型施設の利用者が大きくなり、減少した一方で、閉・密接・密集のいわゆる「3密」を避けようとする動きから、ゴルフやキャンプ、サイクリング等の人気が上昇し、観光地についても、大規模公園や景勝地等の屋外型の観光施設の

The map illustrates the Namegata Seaside Area with several key locations marked:

- 【開上地区マップ】** (Seaside Area Map)
- 名取川** (Namegata River)
- かわまちてらす開上** (Kawamachi Terasu Kaijō)
- (4)** (Marker 4)
- 開上ヨットハーバー** (Kaijō Yacht Harbor)
- 開上港** (Kaijō Port)
- ゆりあげ港朝市** (Yuriage Port Morning Market)
- ①** (Marker 1)
- ②** (Marker 2)
- ③** (Marker 3)
- ④** (Marker 4)
- ⑤** (Marker 5)
- 名取市サイクルスポーツセンター** (Namegata City Cycle Sports Center)
- 名取トレイルセンター** (Namegata Trail Center)
- ゆりあげ周遊船** (Yuriage Sightseeing Boat)

【名取市開上地区の屋外型レジャー・観光施設の動向】 (Trend of outdoor leisure and tourism facilities in the Kaijō area of Namegata City)

- ①14年5月 ゆりあげ港朝市 営業再開
- ②18年8月 ゆりあげ周遊船 運航開始
- ③19年4月 名取トレイルセンター 開所
- ④19年4月 かわまちてらす開上 開業
- ⑤19年4月 開上ヨットハーバー 再建
- ⑥20年10月 名取市サイクルスポーツセンター 営業再開

行動変容受け、活況見せる

復興を契機とした屋外型レジャー・観光施設

午観光統
ると、20
観光客入
減と大き
元地で観
る一方、
ホーツ関
人増二
ダム(同)

して、このコロナ下における人々の行動変容を受けてもなお訪れる人を魅了し続け、人ととのコミュニケーションを形成する空間としてその存在意義を高めている。外部的な要因により不動産の利活用の方法が変わらうとも、人と人をつなぐことができる屋外型施設

余暇の過ごし方に変化
屋外型レジャー・観光施設
の人気が高まっている背景の
設のシヨ

ション施設等の屋外型観光施設の一部では、19年の観光客

う。(東北支社／不動産鑑定士・吉田弘)